

第6回狛江市基本計画策定第二分科会会議録

- 1 日 時 令和元年8月20日(火)午後7時～9時20分
- 2 場 所 狛江市防災センター4階 403会議室
- 3 出席者 委員長 杉浦 浩
副委員長 富永 和身 副委員長 馬場 健司
委 員 五十嵐 秀司 委 員 後藤 千尋
委 員 成井 篤 委 員 清水 満
委 員 橋本 研 委 員 平山 達郎
事務局 池田企画調整担当主任 佐々木企画調整担当主任
- 4 欠席者 副委員長 五十嵐 太一
- 5 議 題 1. 施策の方向性について
(7 自然を大切に、快適に暮らせるまち)

2. その他
- 6 会議概要

議題1 施策の現状と課題について

(3 活気にあふれ、にぎわいのあるまち)

～事務局より説明～

委員長 それでは、これより議論を開始する。

五十嵐秀委員 「①自然環境・公園」について、狛江市の人口一人当たりの公園の面積が、他自治体に比べて多いのか少ないかにもよって、書きぶりが変わってくるのではないかと。

委員長 多摩川の河川敷は緑地であるため、公園・緑地を人口比で出すと、そこまで悪い数字ではないと思う。それよりも問題なのが、非常に小さな、似たような用途の児童遊園が市内にいくつも点在している点にあると思う。そのため、どのくらいの公園が本来の機能を果たしているのかについて、検証する必要があると思っている。

五十嵐秀委員 現在まちづくり条例において、一定の要件以上のマンション等の建設時に公園を確保してもらうことになっているが、そうではなく、公園建設協力金のようなものをいただいて、それをまとめて広い公園を確保する方が良いと思っている。

事務局 担当部署においても、似たような役割の小さな公園が点在していることに

対して問題意識を持っている。

馬場委員 現状、「施策の現状と課題」と「施策の方向性」に書かれている内容の順番が違っているため、それぞれ対比するような順番にしていきたい。

もう1点、「施策の現状と課題」の2つ目で、「市民の意思形成を～」と記載されているが、言い回しを修正した方が良いと思った。

富永委員 和泉多摩川緑地の都立公園化について、災害時に多摩川の橋を渡れない人が川の手前で滞留する可能性があるため、滞留できる場所を確保するというのも、目的の一つである。

委員長 ただ都立公園化を目指すのではなく、今の富永委員の話のような、都立公園化によるメリットを記載すべきである。

五十嵐秀委員 防災や憩いの場といった様々な観点から公園が必要であり、都立公園化というのはそのための手法の一つに過ぎないため、その目的がぼやけないような記載にしていきたい。

委員長 アドプト制度の団体数の推移は順調なのか。

事務局 市としては今以上に輪を広げていきたいと考えているが、数としては伸び悩んでいる。加えて、メンバーの高齢化等により、活動の頻度等が落ちている団体も中にはあると聞いている。

委員長 もう1点確認だが、①「自然環境・公園」の「施策の現状と課題」に、市内の公園の特徴として、「面積が狭小であり、画一的な整備とる場合多い」という記載があり、事情としてはいたしかたない部分があるのだと思うが、近くに点在する公園同士や、その公園と多摩川緑地による、緑のネットワークについて記載をしても良いのではないか。

事務局 本日の資料としてお付けしている未来戦略会議全体報告書における環境部の提案においても、委員長がおっしゃったような内容と同様のものがあり、また、現在改定中の緑の基本計画にもそのような記載があるため、それらを参考に追記させていただく。

後藤委員 私はまだ狛江に越してきて間もないことから、狛江の全域をしっかりと把握したいと思い、自分の中でダイアグラム化してみた。その際、公園に関して興味深いことが分かったのだが、狛江市の公園は、小田急線を挟んで北側に多く分布していることが分かった。

委員長 以前、都市計画審議会でも狛江市の南北格差についての議論があった。それは公園だけではなく、道路にも言えることである。

五十嵐秀委員 ⑤「市街地整備」について、やはり狛江駅南口の再開発は、駅の地域拠点化という観点も踏まえて、必用不可欠だと思う。

富永委員 私個人としては、喜多見駅の北口についても、道路環境等含めて、整備が必要だと思う。

委員 長 ①「都市環境」についての内容は、環境基本計画と整合はとれているのか。

事務局 本日の資料については、担当部署と調整をしている。

馬場委員 施策の方向性1に水素エネルギーについての記載があるが、実際に今後検討していくのかを改めて担当部署と調整していただきたい。

事務局 再度調整させていただく。

富永委員 要望に近い形になってしまうが、道路や上水道、下水道の工事は、可能な限り1度でやるようにして、市民の負担を減らしていただきたい。2年前に道路の工事をやっていたところを、今下水道の工事をしているといったようなことがあるといったイメージがある。

委員 長 もし、そのような事実があるのだとすれば、そうならないような仕組みづくりが必要かもしれない。

五十嵐秀委員 こまバスについて、いつ見ても乗客数が少ない。市として予算をそれなりにかけていると思うので、もう少し乗車数が増えるような工夫をしていただきたい。

後藤委員 それに関しては私も同様のイメージを持っていたのだが、今日ここに来る途中で見たこまバスは満員だった。そのため、通勤・帰宅時間帯等は、それなりに需要があるのではないかと思った。

委員 長 ここ2・3年は頭打ちになってきているが、運行当初に比べて年間利用者数は伸びてきている。また、後藤委員がおっしゃったように、現在は通勤者の足になっているが、元々は福祉バスというものがあって、その福祉バスをコミュニティバスに転換したのが、こまバスである。

清水委員 ⑥「道路・交通」について、狛江市として、小田急電鉄と今後どのように付き合っていくかということは、基本計画に記載できないのか。例えば、月に2回は話し合いの場を持って、要望をしていくといった内容である。市内を走る唯一の鉄道である小田急電鉄は、狛江市とは切っても切れない関係であるように思う。

委員 長 自治体と鉄道会社の関係というのは微妙なところがあって、自治体によってはかなり密接なところもあれば、かなり疎遠なところもある。そこは狛江市の実態に即して記載していただければ良いが、小田急電鉄と定期的に話し合っていくということぐらいは、記載しても良いのではないか。

平山委員 鉄道やバスといった交通施策は、非常に重要な内容であるため、⑤「道路・交通」の冒頭に持っていても良いのではないか。

橋本委員 小田急電鉄とは、セクション毎の話し合いを行っているのか。

事務局 もちろん、セクション毎に関わりがあり、例えば交通担当部署においては、駅前の放置自転車対策について小田急電鉄と密に連絡・調整をとっている。

後藤委員 交通施策と話が離れるかもしれないが、小田急線の高架下をもう少し有効

的に活用できないか。

多摩川の利活用に今後本格的に着手していくのであれば、狛江駅から多摩川までの最短コースが高架下の横の道路なのだと思うので、そこを通るときに食べ物や川で遊ぶためのグッズが買えるようなお店があると良いのではないかと思った。そうなったときに、一番再編できそうなのが、駐輪場だと思っている。

五十嵐秀委員 市にとって、鉄道会社というのは非常に重要な存在である。そのため、give&takeの、そしてwin-winの関係を築いていく必要がある。

鉄道会社にとって一番ありがたいのは、乗降者数の増加であるため、後藤委員から話があったような企画を提案すれば、鉄道会社ものってくるのではないか。ただし、それを一方的に頼むだけではなく、小田急電鉄にとってもメリットがある仕組みをつくっていく必要がある。

そういった点も含めて、どこかに小田急電鉄との連携というのは記載していくべきだと考える。

清水委員 市の内情はあるのだろうが、今より一歩前へ踏み出さないといけないと思う。

五十嵐秀委員 鉄道会社も、自治体とは良好な関係を築いていたいと思っているはずである。いずれ狛江駅南口の再開発という話になった場合に、鉄道会社との協力は必須となってくると思うので、鉄道会社との連携については、書きぶりを庁内で議論いただきたい。

委員 長 鉄道会社との関係については、交通施策として記載するのではなく、ソフト面をも含めた狛江全体のまちづくりに関連してくる内容であると思う。現在、⑤「市街地整備」の「施策の方向性」で、駅の拠点化についての記載があるが、ここを少し膨らませて、単純な駅空間の機能強化だけではなく、総合的な連携をするといった趣旨を盛り込んでいただけたらと思う。

事務局 委員長がおっしゃったとおり、⑥「道路・交通」に記載してしまうと、狭義の議論になってしまうため、どの分野に入れるのかも含めて、様々な施策に関連するような記載を検討させていただく。

富永委員 現在、健康のためのウォーキングがブームになってきているので、狛江市としても、例えば市内の史跡を回るようなコースといった、市内の散策コースというものを作っていくべきだと思う。

事務局 文化財マップの作成を現在主管課で進めている。

五十嵐秀委員 他自治体との連携で、散策コースやハイキングコースのようなもの作るのが理想だと思う。

委員 長 ⑤「市街地整備」の空家の問題について、「施策の現状と課題」には、空家の発生を抑制するという書き方をしているが、実際問題として、どうすれ

ば発生抑制をできるのか。

五十嵐秀委員 空家が発生する原因について、1つは老朽化によりもう住めなくなってしまうこと、もう1つは、まちに魅力がなくて、家を出ていくということがあるのではないかと。他にも要因はあるのであろうが、発生抑制となると、確かに抜本的な対策は見当たらないような気がする。

事務局 狛江市空家等対策計画では、発生抑制策として、相続に対する支援といったことを掲げている。

委員長 狛江は決して地価が安いところではないので、空家というものの自体、非常にもったいないと思うの。

事務局 地価の高さ等に関わらず、空家は全国的な問題になってきている。

委員長 もう1点、これは⑤「市街地整備」になるのか、あるいは⑥「道路・交通」になるのか分からないが、今後、水道道路をはじめとして、都市計画道路等の整備を進めていくことになると思うが、その際、沿道の用途地域を変えて、商業施設といったものを呼び込めるようにしていただきたい。

平山委員 都営狛江団地について、かなりの築年数になってきていると思うが、建て替え計画といったものはあるのか。

事務局 当然今後建て替えや改修といったことも視野に入ってくると思うが、あくまで都営であるため、東京都が主導していき、狛江市が協力する形となる。

委員長 公営ではないが、多摩川住宅でも現在建て替えに向けて議論が進んでいる。大規模な集合住宅の建て替えに当たっては、現在の戸数を確保するとともに、事業費を捻出のためのスペースが必要になってくるため、まずは容積率を増やすことが前提となってくる。そうすることで、今までなかったような機能が入ってくる場合があるため、そうなったら自治体にとって大きな影響がある。

清水委員 狛江市には、市街地整備についての専門家はいるのか。市街地整備は、一朝一夕でなせるものではなく、相当の知識を持った専門家が長時間かけて行っていくものである。もしないのであれば、今後養成していくという視点が必要になってくると思う。

成井委員 例えば、清掃やごみの分別、緑の増加といった、7「自然を大切にし、快適に暮らせるまち」の実現に資するような取組をした際に、市からポイントをもらうことができ、そのポイントで買い物ができるような仕組みができれば、市民もわくわくするし、市としても取組が進むため、双方にとってメリットがあるような気がする。

橋本委員 地域通貨といったものがあるため、そういった仕組みは面白いと思う。

事務局 この分野の取組ではないが、現在市には健康ポイント、介護ポイントの制度があり、健康や介護に資するような取組に対してポイントを付与し、ポイ

ントによって、景品がもらえることになっている。

五十嵐秀委員 基本計画に目玉のような事業があった方が良いとは思いますが、何か具体的な案があるわけではないとのことなので、どうするか。

委員 長 ⑤「市街地整備」に関しては、少し踏み込んだ記載をしていただきたい。
市街地整備に関しては、他自治体より遅れてしまっているイメージである。

平山委員 目玉事業について、狛江市単独では難しいことでも、調布市や世田谷区等と連携して、共同で事業ができれば良いと思う。

委員 長 多摩川住宅の建て替えについては、調布市と連携しながら、比較的良い方向へ進行していると聞いている。

平山委員 狛江は、23区と比べても遜色がないくらい地理的な部分で恵まれているにも関わらず、自然が強みの1つであるため、そこは打ち出して行くべきだと思う。

五十嵐秀委員 近隣自治体のみではなく、多摩川でつながっている自治体との連携というものを検討していくべきだと思う。

事務局 多摩川流域の自治体と連携して、各自治体のイベントを盛り上げるための方策や、共同で物産展を開催するといった取組は現時点でも行っている。

五十嵐秀委員 それを基点にもっと広げていく、内容を深掘り下げていくという視点が必要だと思う。

平山委員 そのように、各自治体を巻き込んで事業を展開していくような職員の育成も重要な視点である。

清水委員 狛江にも良さはもちろんあるのだが、近隣自治体に住んでいる人は、狛江をおもしろい自治体だとは思っていないのではないかな。それに対抗するわけではないが、そういった危機感のようなものは持つべきだと思う。

委員 長 周りを見ると、個性的な自治体が多いため、本当にこの小さな狛江市が、このままじっとしていると、特色がなくなっていってしまうと思う。今回、何かを打ち出さないといけないということで、基本構想の将来都市像に「文化」という言葉を入れたのだと思う。

五十嵐秀委員 やはり、多摩川を活用するということが必要になってくるのではないかなと思う。

また、人口が8万人程で、市域も狭いことから、市民の合意形成が比較的しやすいまちだと思うので、先進的な事例の実証実験等をもっと積極的にやってみても良いのではないかな。

橋本委員 狛江市でそういった実証実験をやるとなると、国から助成金等がもらえると思う。また、実証実験がうまくいき、いざ導入するとなると、導入に係る費用も負担してもらえると思うので、メリットはあると思う。

後藤委員 そのためにも、狛江市に条件に近い自治体による成功例があると、より説

得力が増すのではないか。

清水委員 全体的に、一般市民には理解できない用語が出てくるが、用語に注釈をつけて説明を加える予定はあるか。

事務局 その予定である。

議題2 その他

委員長 その他特に意見等なければ、第5回狛江市基本計画策定第二分科会を終了する。